

投資事業評価周書（新規）

部課室名	県土整備部土木局 道路建設課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路建設課長 多田 智 (課長補佐兼県道係長 吉村 文章)	内線	4362 (4376)
------	-------------------	---------------------	----------------------------------	----	----------------

事業種目	道 路	事業名	事業区間	総事業費	約5.5億円
		道路改築事業 (一)十戸養父線	とよおかしひだかちょうちみ 豊岡市日高町知見 ～養父市馬瀬	内用地補償費	約0億円
所在地		事業採択 予定年度	着工予定 年 度	完成予定 年 度	
豊岡市日高町知見～養父市馬瀬		平成18年度	平成18年度	平成19年度	
事業目的		事業内容			
<ul style="list-style-type: none"> 豊岡市と養父市境の通行不能区間を解消し、合併後の新市相互間の交の促進による地域の活性化を促進する。 台風23号被害を踏まえた災害時における南北交通のリダンダンシー確保を図る。 神鍋高原から改築された公立八鹿病院へのアクセス性が飛躍的に向上し、神鍋高原地域住民の地域医療サービスの向上に寄与する。 		道路改築（バイパス） L = 2,772 m （うちトンネル L = 1,563 m） 【計画幅員】 土工部 W = 5.5 (7.0) m (2車線) 【現況幅員】 W = 1.0 (1.0) m 【計画交通量】 2,200台/日 【現況交通量(H11セマシ)】 1,182台/日 【負担割合】 県 : 10 / 10			
評価視点	評価結果の説明				
(1)必要性 安全・安心の確保	<ul style="list-style-type: none"> 通行不能区間の解消により、災害時における緊急避難路及び代替路線としての機能が発揮され、リダンダンシーが確保される。 神鍋地域は現状で公立豊岡病院より30分到達圏域外にあるが、公立八鹿病院の30分圏域に含まれることになり、地域の救急・救命医療サービス向上が図られる。 				
くらしと交流を支える 道づくり	<ul style="list-style-type: none"> 豊岡市と養父市を結ぶ南北幹線は国道312号しかなく、新たな南北軸研成により、但馬地域の交流・連携が図られ、両市の商圏拡大をもたらすなど、地域発展に大きく寄与する。 古くから血縁関係も深い地域の生活道路としての機能や、県立但馬長寿の郷へのアクセス向上により高齢化著しい但馬地域の保健、医療、福祉の連携と交流の促進が図られる。 				
地域ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> 当該道路の整備は、県道の通行不能解消にも資することから、元々両市の市道改築事業として進められていたものを、両市からの要請を踏まえ県として支援するものである。 				
(2)有効性・効率性 有効性	<ul style="list-style-type: none"> 費用便益比 B / C = 1.6 (市事業分含むB / C) 				
代替性	<ul style="list-style-type: none"> 県としてより経済的に県道の通行不能の解消を図る本ルートが最適である。 				
効率性 (事業執行環境)	<ul style="list-style-type: none"> 県道十戸養父線の通行不能を解消すべく、事業が進められている市道知見八鹿線の道路改築事業を県道事業として整備するものであり、既に地元説明や用地買収は完了しており、円滑な事業執行環境が整っている。 				
(3)環境適合性	<ul style="list-style-type: none"> 近隣には、貴重猛禽類のクマタカが生息しているが、事業実施にあたり、モニタリング調査を継続して実施する。 切、盛土法面には周辺環境に配慮した緑化を行い、環境への影響を最小限に留める。 				
(4)優先性	<ul style="list-style-type: none"> 既に事業を進めている市道知見八鹿線の(仮)知見八鹿トンネルが平成18年度中に貫通することから、市道工事に引き続き県道での整備を進めるため、平成18年度着手としなければならない。 				